

季刊

冬号



博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

冬の特集展

131

震災遺産を考える

福島県立博物館



浪江町 避難所となった荻野小学校体育館

冬の特集展

震災遺産を考える



被災地のガレキ(南相馬市) 画像：個人蔵



体育館に落下した照明(富岡町)



壁に残された津波の痕跡(南相馬市) 画像：個人蔵

あの日、何が起きたのか、
いま何が起きているのか―
「震災遺産」を考える

壊れてしまったものを展示するのは、特異なことかもしれませんが、
展示するものは美しかったり、時を重ねてきたものがほとんどで
からです。

ですが、地震、津波、原子力災害を直接伝える資料や、このでき
ごとによって引き起こされた、救助、避難、支援、除染、復興に
関する資料は、ふくしまの震災を語り継ぐ上で大切なものとなっ
ています。

今回は『避難』に着目します。あの日、何が起きたのか、いま何
が起きているのか考える場となるように、避難することで生まれ
たモノやコトに着目し展示を行います。
県内ではあまり知ることができない県外避難についても県外の関
係者から協力を受けて展示を行います。
福島に残されたものだけでなく、視点を変えて見つめることで、
また違った震災遺産のとらえ方が生まれるかもしれません。

(震災遺産担当：筑波匡介)



震災遺産レプリカ型枠作業



震災遺産の収集(富岡町)



震災遺産の保全に取り組む(富岡町)



震災遺産の保全

イベント

会期中、多様な視点でイベントを行います。被災遺構の保存と活用を考える講演会や防災講座を開催。担当学芸員による展示解説会は会期中6回。会期中の館長講座では特別講師をお招きして中越大震災が遺したものをテーマに振り返ります。考古学講座や後援事業でも災害や震災を学ぶ場を設けます。まもなく8年目の3月11日。みなさんと震災遺産を考える福島県立博物館の冬です。

【防災講座】

「楽しいぞえ」

日時：2月16日(土) 10:30～12:00

講師：会田理恵子氏

(にいがた災害ボランティアネットワーク事務局長)

【展示解説会】

日時：2月16日(10:00～)、2月23日(13:30～)

3月10日(ミュージアムイベント終了後)

3月21日(13:00～)

3月30日(13:30～)、4月7日(13:30～)

*いずれも30分を予定

【館長講座】

「中越大震災が遺したもの」

日時：2月21日(木) 13:30～15:00

講師：赤坂憲雄(当館館長)

特別講師：澤田雅浩氏(兵庫県立大学大学院准教授)

【考古学講座】

「災害を発掘するー考古学から見える会津の災害史ー」

日時：3月17日(日) 13:30～15:00

講師：荒木隆(当館学芸員)

会期：2月16日(土)～4月11日(木)
休館日：毎週月曜日、3月22日(金)
会場：福島県立博物館 企画展示室

観覧時間：9:30～17:00 (入館は16:30まで)
観覧料：無料
主催：福島県立博物館

イベント
レポート

企画展

戊辰戦争150年

会期：平成30年9月1日(土)～10月14日(日)

主催：福島県立博物館・新潟県立歴史博物館・仙台市博物館

協力：日本通運株式会社

本展は新潟県立歴史博物館・仙台市博物館との共同企画で実現し、東北や越後の視点から戊辰戦争を見つめました。7月14日(土)に新潟でスタートし、当館を経て、12月9日(日)に仙台で半年に及ぶ展覧会の幕を閉じました。共通のストーリーに関わる基幹資料は3館を巡回させつつ、各館でそれぞれ独自の地域資料を加えてご紹介したため、3館ともご覧頂くなどリピーターのお客様が多かったのが本展の特徴です。

当館では38日間の会期中、1万7千人を超えるお客様をお迎えしました。共通図録のほか、オリジナルクリアファイル、無償配布した「戊辰戦争150年ミニガイドブック」、展示のしかけとして会場各所に設置したミニパネル「源蔵一言解説」(実在した会津藩士渋谷源蔵による展覧会案内)なども好評頂きました。「戊辰内乱と「官軍」の創造」と題した中央大学の宮間純一先生の記念講演をはじめとする3回の講演会はそれぞれ超満員で、遠方よりお出で頂いたお客様も多く、関心の高さがうかがえました。また館外灯に設置した広報フラッグは多くのお客様にご注目頂き、SNS上でご紹介頂きました。そのため、感謝の気持ちを込めて展覧会最後の1週間にフラッグのプレゼント企画を行ったところ650通を超えるご応募があり、その中から抽選で15名様にフラッグを差し上げました。

(歴史分野：阿部綾子)



展示室のようす (栗原学芸員による展示解説会)



宮間純一先生の記念講演会



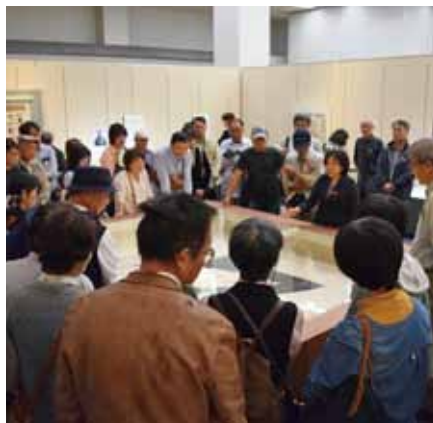
源蔵一言解説パネル



3館それぞれの展覧会チラシ



オリジナルクリアファイル



阿部学芸員による展示解説会



館外灯のフラッグ

ト
ポ
ー
レ
イ
ベ
ン
ト

企画展

「日本のわざと美」展

—重要無形文化財とそれを支える人々

会 期：平成30年10月27日(土)～12月2日(日)
主 催：文化庁・福島県教育委員会・福島県立博物館
特別協力：東京国立近代美術館

「人間国宝」とも呼ばれる重要無形文化財を保持する作り手やその表現を支える素材や道具を製作する技術を伝える本展は、あらためて日本のものづくりの豊かさや現在の困難さを教えてくれる場となりました。どの工芸の技にも天然の素材に感謝しているからこそその自然への畏敬と思慕が表され、それが形となった存在感がありました。それは来場くださった方お一人一人の心をつかんでいようと想います。越後上布の前で微動だにせず見つめ続けていたお客様の姿は忘れられない一場面です。

一方で、人の手によるものづくりはとても厳しい状況におかれています。使われてこそその工芸ですが、暮らしのなかに工芸を伴う人の数は少なくなっています。素材や道具の材料の確保が困難となっているものもあります。会期中に行った実演とワークショップには、福島の工芸である「からむし」「会津型」との関係性から沖繩の喜如嘉の芭蕉布保存会と伊勢型紙技術保存会のみなさんに講師をお願いしました。どちらの団体も高齢化と職業として成立させることの難しさをお話しされていました。それでも、実演の場で食い入るようにその手元に見入っていた参加者のみなさんが、これらの技が未来につながるための一歩を踏み出してくださるのかもしれない。

工芸の歴史と現在と未来。みなさんと大事なことを考える「場」をつくることのできたのであれば、博物館も少し役割を果たせたのかもしれない。「日本のわざと美」はこれからの正念場です。

(美術分野：小林めぐみ)



展示室



伊勢型紙実演



芭蕉布の糸づくりワークショップ



展示室



伊勢型紙実演



芭蕉布の糸



展示室

テーマ展
紹介

託されたおもい 2018
寄贈・寄託の名品たち

— 会津漆器コレクション

会 期：2月16日(土)～3月31日(日)
会 場：福島県立博物館常設展部門展示室 歴史美術
観覧料：常設展料金

福島県立博物館の美術資料・作品の多くは、寄贈や寄託により当館にお預けいただいたものです。テーマ展「託されたおもい 寄贈・寄託の名品たち」では、寄贈者、寄託者の資料・作品へおもいを伝える展示を行っています。今年度は、会津漆器や会津の漆芸作品を対象を絞りました。例えば、あるコレクターが集めたコレクションは、江戸時代から近代までの会津漆器を集めた質の高い資料群。長い年月をかけて収集した愛情たっぷりコレクションを、会津、ひいては福島に役に立つならと、当館にご寄託いただいています。また、ある漆芸作家さんは精魂こめて制作し大切に手元に残してきた作品群を、当館にご寄贈くださいました。福島の方にご覧いただいたり、漆で製作をしている方の参考にしたりしていただければとのおもいからでした。展示を通してそのおもいに触れていただければと思います。多くの方の文化や地域へのおもいの受け皿であること。博物館の大事な役割のひとつです。

(美術分野：小林めぐみ)



関谷浩二「時絵盤 芽ばえ」(福島県立博物館蔵)



「松竹梅漆絵折敷」(個人蔵・福島県立博物館寄託)

ポイント展
紹介

囲炉裏のまわりの道具たち

会 期：12月14日(金)～平成31年2月28日(木)
会 場：常設展部門展示室 民俗
観覧料：常設展料金

例年博物館では、「むかしの道具」展を開催しています。小学校3年生の社会科「古い道具と昔の暮らし」の単元に関連する資料を展示することで、むかしの暮らしぶりや生活の移り変わりについて紹介することを目的とした展示です。今年度は、それほど昔ではない、電気やガスがなかったころに囲炉裏まわりでつかわれていた道具を紹介します。では、囲炉裏にはどのような役割があったのでしょうか。日本人にとって、単なる暖房や調理の場というだけでなく、コミュニケーションの場であった事がいえます。夕飯を終えた囲炉裏のまわりには、薬仕事をする父や祖父、針仕事をする母や祖母、そして石臼を引く子どもたちなど、現代の家族が忘れかけた一家団欒があったのではないのでしょうか。より多くの学校に利用していただくとともに、ご家族でご覧いただき、昔の暮らしぶりについて話をするきっかけにしたいだけだと思います。

(民俗分野：江川トヨ子)



イベント
紹介

ティータイム考古学

日時：第6回 平成31年1月27日(日) 『大工道具からみた日本人』
第7回 平成31年2月24日(日) 『道具の進歩と豊かさ』
会場：レストラン

「ティータイム考古学」は、これまでの講座や講演会とは一味違った新しい学びの場です。当館レストランでお茶を飲みながら、ゆったりとした和やかな雰囲気の中で、参加者みんなで考古学談義をするものです。毎年テーマを設定して、市町村の発掘担当者の方をお招きしたり、新聞やテレビのニュースで話題になった遺跡の話の聞いたりしながら、考古学の魅力について語り合ってきました。

今年度は「考古学を読む」と題して、著名な考古学者が入門者向けに書いた岩波新書(新赤版)「考古学の散歩道」(田中琢・佐原真著)を7回に分けてみんなで読み解いています。該当部分を担当学芸員が要約解説し、参加者との意見交換を行いながら考古学を切り口に原始・古代と現在の意外な繋がりについて考えています。

毎回、「遺跡から分かった〇〇が、現在の△△につながっていたなんて、意外だわ。」という声が聞かれます。

会津の冬を満喫しながら、時空の扉を開けて、過去と現在の意外な関係を探検する旅に出てみませんか。

(考古分野：荒木隆)



企画展予告

とりもどすきずな つながるみらい

会期：平成31年4月27日(土)～6月9日(日)
会場：企画展示室
観覧料：一般・大学生500円、高校生以下無料

アートを通して見つめ、伝えた福島の8年。8年は東日本大震災当時の中学生が社会人になる時間です。この8年の実りを振り返ってみませんか。

震災後、県内では文化・芸術による心の復興のためさまざまな支援が行われました。そこからは、新たな活動を通してきずなが生まれ、今も育まれています。多くの人々が今もつながり、福島の未来を明るくしようとして活動しています。

震災という厳しい出来事をきっかけに生まれ、たきずなが地域文化として定着し、また、アート作品として福島の現状と復興を県内外に発信しているのです。

そうした活動の一端を、福島で行われ今も継続しているアートプロジェクトを中心に、「伝えるアート、楽しむワークショップ」をキーワードにした空間で紹介します。

震災から文化を生み出す、ふくしまの力。人々のつながりによるふくしまの未来。を未来をみなさんとともに考えてみたいと思います。

(美術分野：川延安直)



ハートマークビューイング
(2012年3月25日：東京都港区)



光の鳥ワークショップ
(2011年9月17日：会津若松市)

Information

特集展 企画展示室 ★は要申込

震災遺産を考える

2月16日(土)～4月11日(木)
料金：無料

■防災講座(要申込 無料 先着20名 実習室)

★「楽しいそなえ」

2月16日(土) 10時30分～12時

講師：会田理恵子氏

(にいがた防災ボランティアネットワーク事務局長)

■展示解説会(申込不要、無料)

2月16日(土) 10時～10時30分

2月23日(土) 13時30分～14時

3月10日(日) ミュージアムイベント終了後(15時頃)～

3月21日(木) 祝 13時～13時30分

3月30日(土) 13時30分～14時

講師：当館学芸員

テーマ展

部門展示室 常設展示料金

けんぱくの宝2018 漆芸名品選

部門展示室歴史・美術

2月3日(日)

託されたおもい2018

寄贈・寄託の名品たち

会津漆器コレクション

部門展示室歴史・美術

2月16日(土)～3月31日(日)

うるわしのうるしのつつわ

土の中から

部門展示室考古

5月19日(日)

ポイント展

総合・部門・企画展示室 常設展示料金

会津が生んだ知の巨人・山口弥一郎

災害と民俗

2月16日(土)～4月11日(木)

※この展示は観覧無料です。

囲炉裏のまわりの道具たち

2月28日(木)

日本遺産！会津三十三観音と御詠歌

3月31日(日)

日本遺産！安積疎水ができるまで

3月31日(日)

講座・実演他 ★は要申込

【館長講座】

「東北の文学者たち」(申込不要、無料、講堂)

⑩「若松丈太郎」1月17日(木)

講師：赤坂憲雄(当館館長)

「中越大震災が遺したもの」

2月21日(木) 13時30分～15時

講師：赤坂憲雄(当館館長)

特別講師：澤田雅浩氏(兵庫県立大学大学院准教授)

「山口弥一郎が見た昭和の災害と民俗」

3月14日(木) 13時30分～15時

講師：赤坂憲雄(当館館長)

特別講師：川島秀一氏

(元・東北大学災害科学国際研究所教授)

佐々木長生氏(福島県民俗学会会長)

【民俗講座】

おもしろ民俗学ゼミナール会津編

②「雪かき？雪ほり？雪かたし？」

1月19日(土) 13時30分～14時30分

講師：内山大介(当館学芸員)

③「獅子は1匹？3匹？5匹？」

2月16日(土) 13時30分～14時30分

講師：山口弥一郎(当館学芸員)

④「菊は観るもの？食べるもの？」

3月3日(日) 13時30分～14時30分

講師：江川トヨ子(当館学芸員)

【歴史講座】

★「はじめてさんの古文書講座」全4回

※申込は全4回連続で参加できる方に限ります。

①3月2日(土) 13時30分～15時

②3月9日(土) 13時30分～15時

③3月16日(土) 13時30分～15時

④3月24日(日) 13時30分～15時

講師：歴史分野学芸員

【考古学講座】

「災害を発掘する」

「共催事業」

磐梯山噴火130周年記念講座

「磐梯山は生きてる!!」

1月12日(土) 13時30分～15時

講師：佐藤公氏(磐梯山噴火記念館館長)

★「はじめてさんの古文書講座」全4回

(要申込、定員30名、無料、実習室)

※申込は全4回連続で参加できる方に限ります。

①3月2日(土) 13時30分～15時

②3月9日(土) 13時30分～15時

③3月16日(土) 13時30分～15時

④3月24日(日) 13時30分～15時

講師：歴史分野学芸員

【考古学講座】

「災害を発掘する」

「考古学から見える会津の災害史」

3月17日(日) 13時30分～15時

講師：荒木隆(当館学芸員)

★「勾玉・ガラス玉を作る」

(要申込、先着20名、300円、実習室)

3月23日(土) 10時～15時

講師：考古分野学芸員

【ミュージアムエデュケーター事業】

「タイムタイム考古学」考古学を読む

⑥「大工道具からみた日本人」

1月27日(日) 13時～14時

⑦「道具の進歩と豊かさ」

2月24日(日) 13時～14時

講師：荒木隆(当館学芸員)

スーパージョウゴ

「国のはじまり」(申込不要、無料、レストラン)

2月11日(月) 祝 ①11時、②13時、③14時、④15時

講師：荒木隆(当館学芸員)

【お問い合わせ先】福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

Tel 0242-28-6000・Fax 0242-28-5986

Mail general-museum@fcs.ed.jp

ミュージアムイベント ★は要申込

「会津の彼岸獅子」

(申込不要、無料、エントランスホール)

3月10日(日) 13時30分～15時

★要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始します(異なる場合もありますのでご確認ください)。電話もしくは受付カウンターでお申込みください。

※部門展示室民俗は3月1日(金)～3月31日(日)まで展示替えのため休室になります。

※その他、行事等の詳細につきましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

1～3月の休館日

1月1日(火)・2日(水)・3日(木)

4日(金)・7日(月)・15日(火)

21日(月)・28日(日)

2月4日(月)・12日(火)・18日(月)

25日(日)

3月4日(月)・11日(月)・18日(月)

22日(金)・25日(日)

【お問い合わせ先】福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

Tel 0242-28-6000・Fax 0242-28-5986

Mail general-museum@fcs.ed.jp